

製品名: Rock-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17313**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	158kDa

抗原情報

遺伝子名	ROCK1
別名	ROCK1; Rho-associated protein kinase 1; Renal carcinoma antigen NY-REN-35; Rho-associated; coiled-coil-containing protein kinase 1; Rho-associated, coiled-coil-containing protein kinase I; ROCK-I; p160 ROCK-1; p160ROCK
遺伝子 ID	6093.0
SwissProt ID	Q13464
免疫原	抗血清はヒト Rock-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 262-311

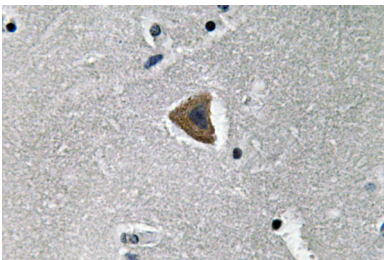
背景

この遺伝子は、GTP 結合型 Rho に結合すると活性化するタンパク質セリン/スレオニンキナーゼをコードしています。低分子 GTPase である Rho は、不活性型の GDP 結合型と活性型の GTP 結合型の間を往復することで、線維芽細胞の接着斑とストレスファイバーの形成、ならびに血小板とリンパ球の接着と凝集を制御します。Rho は細胞質分裂にも不可欠であり、血清応答因子による転写活性化にも関与しています。Rho の下流エフェクターであるこのタンパク質は、LIM キナーゼをリン酸化して活性化し、LIM キナーゼはコフィリンをリン酸化して、そのアクチン脱重合活性を阻害します。この遺伝子に関連する疑似遺伝子も 18 番染色体に位置する。[RefSeq 提供、2015 年 8 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、ドメイン: C 末端自己阻害ドメインはキナーゼ活性を阻害する。RHOA 結合はキナーゼの構造変化と活性化につながる。切断型 ROCK1 は恒常的に活性化される。、酵素調節: RHOA 結合により活性化される。、機能: 多数の重要なシグナル伝達タンパク質をリン酸化することで、アクチン細胞骨格の組み立て、細胞移動、腫瘍細胞の浸潤性、平滑筋収縮、神経突起伸展を制御するタンパク質キナーゼ。アポトーシスによる膜ブレブ形成に必要。平滑筋収縮に関与する。セントロメアへの配置とセントロメア依存性の有糸分裂からの離脱に必要である。、その他:Y-27632 によって阻害される。、PTM:セリンおよびスレオニン残基が自己リン酸化される。DNA 損傷 (おそらく ATM または ATR による) 時にリン酸化される。、PTM:アポトーシス中にカスパーゼ 3 によって切断される。これによりキナーゼの恒常的活性化と膜ブレブ形成が引き起こされる。、類似性:プロテインキナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: PH ドメインを 1 つ含む。、類似性: ホルポールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。、類似性: REM (Hr1) リピートを 1 つ含む。細胞内局在: 母中心小体および中心小体間リンカーと関連 (類似性による)。一部はゴルジ膜と関連している。、サブユニット: RHOA (GTP 活性化) に結合。ADD1、GEM、RHOB、RHOC、MYLC2B、VIM と相互作用 (類似性による)。RHOE、PPP1R12A、LIMK1、LIMK2 と結合。TSG101 と相互作用。、組織特異性: 血小板で検出。、

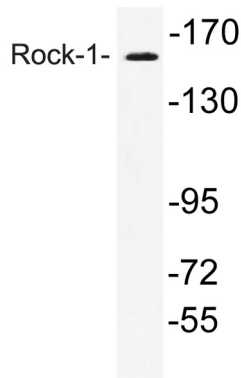
研究分野

ケモカイン、血管平滑筋収縮、WNT、WNT-T CELLTGF-beta、軸索誘導、接着斑、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、病原性大腸菌感染。

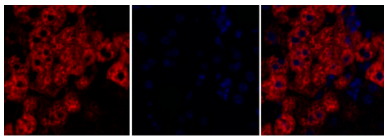
画像データ



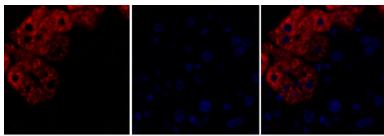
パラフィン包埋ヒト脳組織における Rock-1 抗体の免疫組織化学分析。



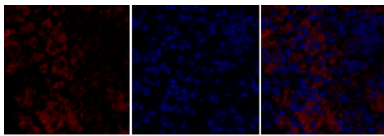
Rock-1 抗体を使用した COS7 細胞の溶解液のウエスタン ブロット分析。



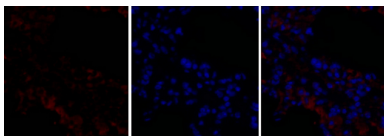
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Rock-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



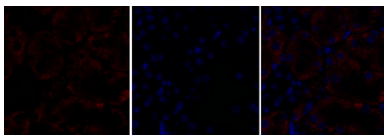
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Rock-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



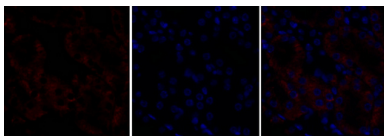
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, Rock-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



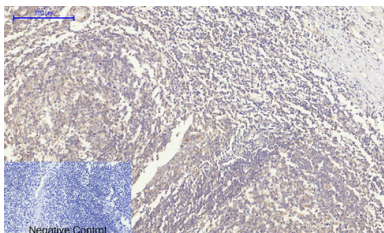
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, Rock-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, Rock-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, Rock-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. Rock-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。